



龍谷大学 犯罪学研究センター (CrimRC)



RYUKOKU
UNIVERSITY

公開研究会・シリーズ「戦争と犯罪」

～いま世界各地で起きている戦争と犯罪について考える～

龍谷大学 犯罪学研究センター (CrimRC) は、2022年5月16日 (月) より、公開研究会・シリーズ「戦争と犯罪」をオンラインで共催します。同企画は、シリーズとして複数回を予定しています。コーディネーターは、元共同通信社の記者で、これまで様々な媒体で「国家による犯罪」を告発してきた舟越美夏氏 (ジャーナリスト/犯罪学研究センター嘱託研究員) が務めます。

犯罪学の観点からも、戦争という人類最大の「犯罪」とそれに関連する被害者の問題は、見過ごすことのできない大きな問題です。この研究会シリーズでは、戦場ジャーナリストや研究者、NPO活動家などをゲストに迎え、ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマー、カンボジアなど世界で後を絶たない残虐行為や人権侵害を取り上げ、メディアで語られる機会の少ない、現地のリアルな情報を共有していただきます。

参加者の皆様と共に国際法や人権など多面的な観点から課題を検討します。ぜひご参加ください。

第1回公開研究会：「国際社会は“戦争犯罪”を処罰できるのか？」

日時：2022年5月16日 (月) 18:00-19:30 ※参加無料・事前申込制・Zoom開催

テーマ：「国際社会は“戦争犯罪”を処罰できるのか？」

講師：前田 朗 氏 (東京造形大学 名誉教授)

コーディネーター：舟越 美夏 氏 (ジャーナリスト・犯罪学研究センター嘱託研究員)

司会進行：石塚伸一 (法学部教授・一般社団法人刑事司法未来 代表)

進行予定：①趣旨説明 (10分) ②講師による報告 (50分) ③質疑応答 (30分)

趣旨：第1回目は、ジェノサイドの問題を長年研究してきた前田朗氏をお招きします。テーマは、「国際社会は“戦争犯罪”を処罰できるのか？」です。昨今のロシアのウクライナ侵攻に始まる一連の戦争報道において、軍隊や兵士の残虐行為が「戦争犯罪」「ジェノサイド (大量虐殺)」などと呼ばれ、通常犯罪とは異なる処理をすべきであると主張されています。そこで、前田氏より、ハーグ (オランダ) の国際刑事裁判所 (ICC) における戦時下の犯罪を処罰する制度とその現状課題について報告いただきます。

詳細・申込ページ



主催：一般社団法人刑事司法未来

共催：龍谷大学 犯罪学研究センター

問い合わせ先：龍谷大学 犯罪学研究センター

E-mail：crimrc2016@ad.ryukoku.ac.jp

Tel：075-645-2184